

古品の御照會

仙臺市

東二番丁尋常小學校附設幼稚園

古い物必ずしも尊い譯でもありませんが當園は明治十二年の創立で本年六十週年の記念を迎へました、従つて古い物で相當珍らしいと思はれる品々を有して居ります。請はれるまゝに其の一部を御照會申すことに致しました。温故知新の資ともなりますことなら誠に幸甚と存じます。

額(二十遊嬉)

明治十二年頃の實寫圖で全國に現存せる唯一の原圖であります。筆者は仙臺市出身の武村耕齋女史で、全部日本繪具を使用して絹布に當時の保育の有様を實寫したものであります。畫中の人物に西郷従道氏の令息從理氏及平尾贊平氏等もをられま

す。大きさは縦八三種横五三種で當園創立者矢野成文氏が創立當時購入されたものであります。展覽會の賞狀及賞牌

明治二十三年(一八八九年)バリーに開催されました教育展覽會に當園兒の特技(縫取紙細工)を出品致しました所入賞致して賞牌と共に贈られたものであります。作品出品の方法は宮城縣を経て送りました由、又賞牌は銅製の直徑六厘半の圓板で裏面に Creche Higashi nihanchō と書き込まれてあります。

蓄音機

明治三十七年に寄贈されたもので創立者矢野成文氏令息收藏氏米國コロムビア會社に勤務中當園創立二十五週年の記念式のあるを聴き祝辭を吹き込まれて贈られたものでレコードは管狀をなしてをりました。

笏拍子

幼兒の歌に合せて打つて拍子をこつたもので當園にても古に使用したさうで仙臺市で作らせたもので木材は朴の木樫の木で作つてあります。當園には二組ございまして在庫品としてあります。

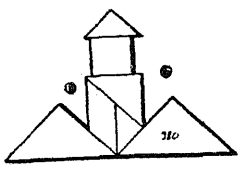
野引塗板(黒板)

當園創立當時より大正の末期迄使用したものでその數三枚あります。一枚は全面の二分の一に二寸の正方形

の野を引き又一枚は全面に一寸の正方形の野を又一枚には一寸の正三角形の野を引いてあります。その塗板の裏に「該器は文部省教育雜誌載する信三關氏所述の法に據つて製之者也干時明治十三年四月仙臺區公立木町通小學校附屬幼稚園擔任矢野成文識ス」この覺書が書いてあります。製作者は仙臺市住人丹野定治氏。

机

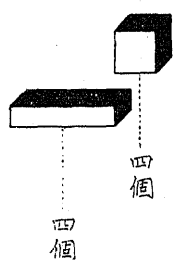
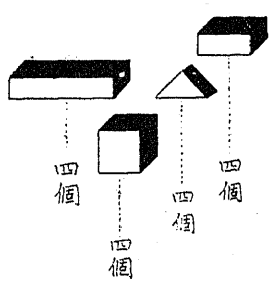
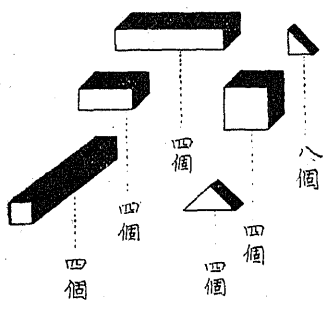
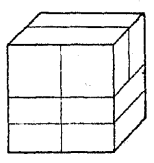
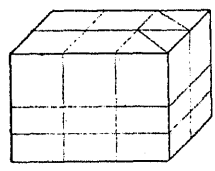
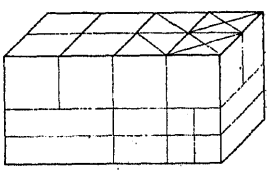
當園創立當時より大正に至る迄使用してゐましたもので明治十二年の製作にかゝるものです。幼兒二人用卓子と稱しまして全部で十六脚ございました。長さ一〇〇浬幅七五浬高さ四〇浬で表面に八分方形の線條を畫して二個の抽出しが附してありましたが後年抽出しを取つて二脚合せて一個の机として使用してをりました。



恩物(第一、第二、第三)改良積木

智恵の板

當園當初に使用したもので正方形一ヶ正三角形の大二ヶ正三角形の中が一ヶ正三角形の小が二ヶ菱形一ヶよりなつてゐて圖案美麗式等己の好める形を作つて遊ぶものがあります。



書籍

幼稚園創立法 關信三識

幼稚園創立法目次

緒言

開園の原由、始祖の略傳、保育の功用、園制の傳播、

設立方法

屋宇の結構、園庭の景況、什具の排置、玩具の供給、職員

の責任。

創立費概算内譯表

幼稚園屋宇圖

保續費概算内譯表

以上日本綴の關信三氏の淨寫書であります。

此の他の古書の大體の目錄

鳩翁道話 一部九冊 文久二年版

通俗伊蘇普物話 一部六冊 明治五年官許

修身論 一部三冊

開卷驚奇暴夜物語 一部二冊

母親の心得 明治八年十一月

修身口授 全卷 明治八年

近藤鎮三譯

漢加斯底爾譯

警眼叢話 明治八年二月官許 中山真一譯

牙氏初學須知 一部十冊 明治八年八月發行

幼稚園記 一部十二冊 明治九年七月發行 田中耕造譯

幼稚園 一部二冊 明治九年一月發行 關信三譯

保嬰親書 一部二冊 明治九年版權免許 桑田親五譯

童蒙をしへ草 一部二冊 明治九年發行 高松凌雲譯

二十遊嬉 一部三冊 明治十二年發行 福澤諭吉譯

幼稚園初歩 一部二冊 明治十八年新彫 關信三著

博覽會見 子育の卷 全卷 飯島半十郎著

聞錄別記 子育の卷 全卷 近藤真琴著

母の導き 一部六冊 土井光華譯

子供育草 一部二冊 村田文夫譯

慈母教草 一部四冊 長合川協輔 高田義甫 同輯